

<おりぞめ教室>で楽しみ!

午後から…

スキル発表、ワクワク!

放課後は<法円坂子どもプラザ>準備会

元気に活動できることは、やっぱり嬉しい!



■楽しい遠足でした! (5月24日) ありがとうございます。

松下幸之助さんのベストセラー「道をひらく」の初めのエッセイには…

・・・道・・・ 自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、他の人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがない道。広いときもある。せまい時もある。のぼりもあればくだりもある。坦々したときもあれば、かきわけかきわけ汗する時もある。

この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もある。なぐさめを求めたくなる時もある。しかし、所詮はこの道しかないのではないか。

あきらめろと言うのではない。いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、ともかくもこの道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。

他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道はすこしもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。

それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。(松下幸之助)



とあります。「ああ松下さんの人生論、哲学だ…いいなあ」と共感します。が…、第二の人生(ボランティア活動)を歩む私には、やっぱり人生の羅針盤とは…「何があってもシメタ!」「いい加減が、良い加減!」「全てのことは<程度のもんだい>と<力積>でほとん

ど解決できる」「<人生の美学>を求めて生きていこう」「幸福論の原点は<絶対的自己自己賞賛>」(板倉聖宣)など。良く使うのはやっぱり<シメタ!>でした。

■<法円坂子どもプラザ>6月講座・B音田クラスは、

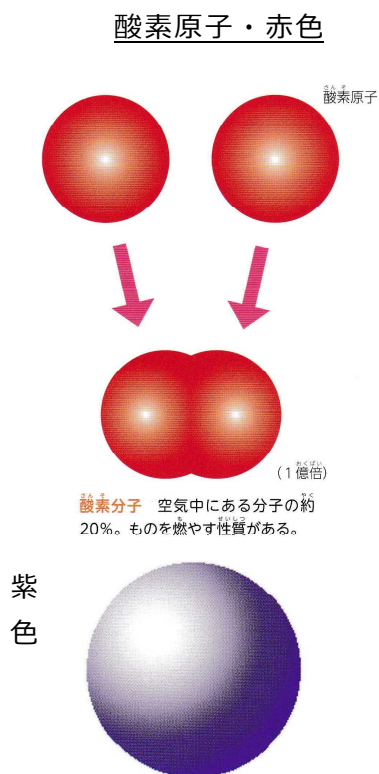
<原子・分子から素粒子へ>見えない世界を探検しよう！

<法円坂子どもプラザ>Bクラス（音田と西田担当）には、リピーター受講生が20名います。昨年度、<もしも原子が見えたなら>と「空気の分子模型作り」を体験しています。このリピーターの子ども達には、「新しいプランの提供が必要になる！」と考えました。そこで考えた授業プランが、<原子の構造から素粒子へ<最小粒子>入門「原子の中をのぞいたら」>。「原子の中をのぞく！」という導入なら小学生にもイメージしやすいのではないのでしょうか。「原子の中をのぞいたら…何が見えるのだろうか??」ワクワク感が生まれてくると思います。どうでしょうか。

第1部では、「空気中の原子・分子」を調べてきました。それでは、原子の中はいったいどうなっているのでしょうか。原子の中をのぞくとなったら、どんな電子顕微鏡でも無理ですが、科学者はいろいろ考え実験した結果、今では原子の中のことまで、とても詳しくわかってきました。では、科学者の研究したことを調べていくことにしましょう。

【質問5】

酸素原子は、どうして酸素分子になって、空気中を動いているのだと思いますか。またアルゴンは、どうして酸素のように2つの原子が結合して分子のようにならないのでしょ



うか。

予想



★アルゴン原子 …「不活性気体 = 希ガス（貴ガス）」ともいわれる。他の原子とほとんど結合（化合）しない。（元素周期表では18族）

★さて、この【質問5】にはどう答えれば良いのでしょうか。前回の授業でも、同様の質問を受けました。「シメタ！やっぱり気になりますよ。これは素朴で基本的な疑問だ！」と嬉しくなりました。★科学者はどう説明するのでしょうか。やっぱり原子構造の基本から説明するのでしょうか。皆さんも科学者になったつもりで、音田に教えてください。